

「グループ会社と一体となった駅業務委託の拡大について」提案受ける!

12月24日会社より「グループ会社と一体となった駅業務委託の拡大について」提案を受けました。提案内容は以下の通りです。

1. 実施時期 2021年4月1日
2. 業務を委託する駅 湯沢駅
3. 委託先会社 JR東日本東北総合サービス株式会社
4. 要員体制

箇所名	関係職		記事
湯沢駅	駅長	—	*変形7H-1形を廃止する。
	助役	—	変形9H-1形を廃止する。
	営業	—	変形9H-1形を廃止する。

提案交渉での議論内容

組合

- 委託に至った判断は。
- 湯沢駅では委託後のプロパー社員を教育できる環境であるのか。
- 要員体制やみどりの窓口営業時間はどうか。
- 今後、委託に伴い冬期体制に向け設備強化はあるのか。
- 奥羽本線、横手駅～新庄駅間において JR 本体運営の駅がなくなる。異常時等において現地責任者が駆けつける足ロスが発生するのではないか。
- これまで駅の業務委託を進める中で、マルス操作について不安の声が上る。
- 湯沢駅舎内に乗務員休憩室もあるが、委託後も使用できるのか。
- 業務委託について自治体の反応はどうか。

会社

- 駅を取り巻く内外の環境変化に対応し、より効率的な駅業務の運営を行う。また、今後エルダー社員数は減少していくが、雇用の場の拡大と JR 本体でも LiViT と意見交換をしながら、プロパーの採用を並行して進めていく。
- みどりの窓口もあり、教育できる環境であると認識している。
- 要員体制は LiViT で決定していくことになるが、みどりの窓口の営業時間 (6:20~18:00) に変更ない為、要員体制も大きくかわらないと考えている。
- ポイント熱風式融雪装置や電気融雪マットを、現在検討している最中である。
- 現地責任者においては地区連携室等から駆け付けることになる。異常時においては、お客さまを第一の視点を持ってグループ総体で対応していく。
- これまで同様、不安があれば営トレでの教育もできるが、駅の特情に合った OJT が効率的である。
- 委託後も使用できる。
- 営業時間が変わらないこともあり、自治体への説明はスムーズに進んでいる。

働きがいある職場、お客さまの利用しやすい駅にしていくために議論していこう!